

平成25年度全国学力・学習状況調査の結果（津市）

平成25年10月
津市教育委員会

平成25年度全国学力学習状況調査の結果から、津市の小学6年生の平均正答率は昨年度比で大きな変化はなかったが、すべての教科で全国平均を下回っていた（3.5ポイント～1ポイント）。中学3年生は、全国平均と同じか調査科目によっては若干上回っており、向上傾向が見られた。学習や生活の状況については、TVやゲームに費やす時間が多いなどの課題もあるが、家庭学習の時間が増えるなど、改善傾向にある項目もあった。

1 調査概要

- (1) 実施日 平成25年4月24日（水）
- (2) 調査実施人数（津市）
小学校第6学年の児童 約2,370人 中学校第3学年の生徒 約2,260人
- (3) 実施内容
 - ① 教科に関する調査（国語、算数・数学）A：知識・技能 B：活用
 - ② 生活習慣や学習習慣等に関する質問紙調査
 - ・児童生徒に対する調査
 - ・学校に対する調査

2 調査結果

(1) 教科に関する調査

① 各教科正答の状況

H25	小学校調査				中学校調査			
	国語		算数		国語		数学	
	A(知識)	B(活用)	A(知識)	B(活用)	A(知識)	B(活用)	A(知識)	B(活用)
全国 平均正答率	62.7%	49.4%	77.2%	58.4%	76.4%	67.4%	63.7%	41.5%
三重県 平均正答率	60.3%	46.7%	75.8%	55.3%	75.0%	65.8%	63.2%	39.3%
津市 平均正答率 全国比較	全国より低い	全国より低い	全国より低い	全国より低い	全国より少し低い	全国とほぼ同じ	全国より高い	全国より少し低い
全国 平均正答数	11.3問 /18問	4.9問 /10問	14.7問 /19問	7.6問 /13問	24.4問 /32問	6.1問 /9問	22.9問 /36問	6.6問 /16問
三重県 平均正答数	10.9問 /18問	4.7問 /10問	14.4問 /19問	7.2問 /13問	24.0問 /32問	5.9問 /9問	22.8問 /36問	6.3問 /16問

※ 平均正答率及び平均正答数については、全国、三重県、津市いずれも公立校のみの結果を集計した値である。

※ 平均正答率概要については、全国と津市の差異が±0.3%以内をほぼ同じ、±0.3%～1.0%を少し高い・低い、±1.0%以上を高い・低いと表している。

※ 平成24年度同様、ほとんどの都道府県の平均正答率が全国の平均正答率の±5%の範囲内にあり、ばらつきが小さい。

※ 津市の平均正答率は、全国の平均正答率の±5%の範囲内にある。

③ 教科ごとの結果概要

【小学校国語】

- (ア) 漢字の読みや、ことわざの意味の理解については、相当数の児童ができています。
- (イ) 「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」の全領域において、下の学年で習得しておくべき基礎的・基本的な知識・技能の定着に不十分なものがある。とくに、漢字の書きの定着、文の区切り接続語を使って文を分けることに課題がある。
- (ウ) 複数の内容を含む文・文章・図を分析的に捉え、引用や関連付けをしながら分かることや自分の考えを書くことに、依然として課題がある。

【小学校算数】

- (ア) 整数・小数・分数の四則計算や棒グラフの読み取りについては相当数の児童ができています。
- (イ) 図や表を観察して、問題の解決に必要な情報を選び出すことに課題がある。
- (ウ) 式や計算結果の意味を的確に読み取ることに課題がある。
- (エ) 数量関係を理解し、言葉・数・式を使って、理由を記述することに依然として課題がある。

【中学校国語】

- (ア) 描写の内容や、文脈の中における語句の意味については相当数の生徒が理解できています。
- (イ) 伝えたい事柄を明確にして書くことや、根拠を明確にして自分の考えを書くことに、依然として課題がある。
- (ウ) 文章の構成や表現の特徴を的確に捉えることに、依然として課題がある。
- (エ) 文脈に即して漢字を書くことや、語句の意味を理解して文脈の中で適切に使うことに一部課題がある。

【中学校数学】

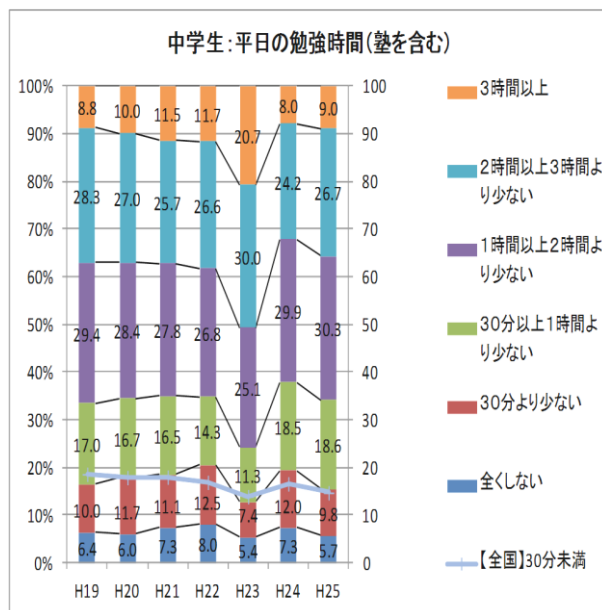
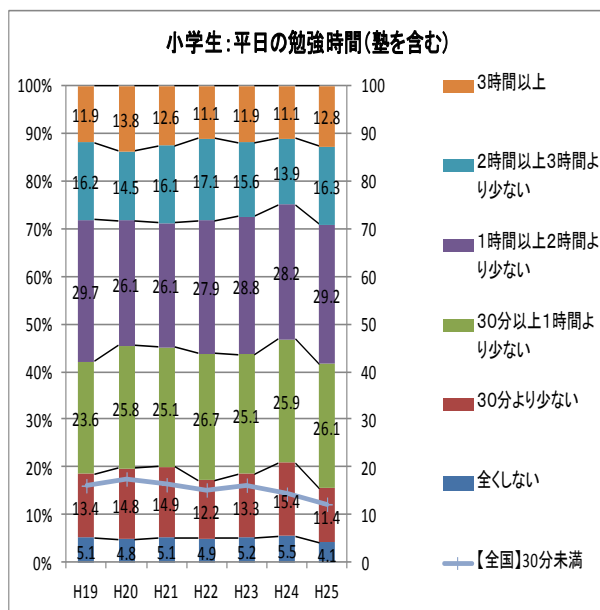
- (ア) 基礎的な計算や具体的な数量から簡単な連立方程式を立式することについては、相当数の生徒ができています。
- (イ) 数量の関係を文字式で表したり、多角形の外角の意味を理解するなど、身に付けておかなければ後の学習に影響を及ぼす内容の習得に課題がある。
- (ウ) 数学的な表現や数学的な解釈を通して、事柄が成り立つ理由や問題解決の方法について、筋道を立てて説明することに課題がある。とくに、一次関数の活用や図形の証明、基石などの具体物についての数量関係を多面的に考察することに大きな課題がある。

(2) 生活習慣や学習環境等についての調査

① 生徒質問紙の結果

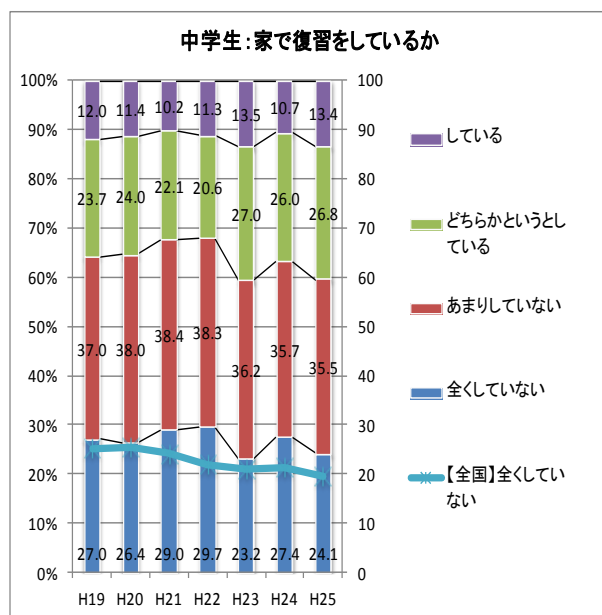
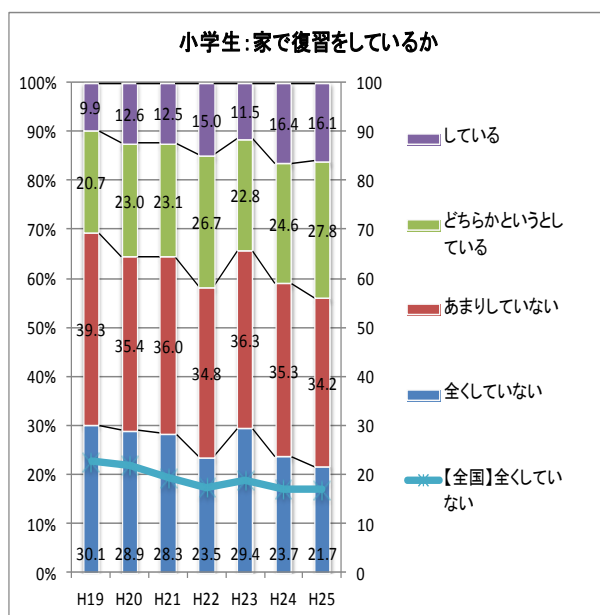
【家庭学習】

平日の家庭学習(塾や家庭教師を含む)を「全くしない」または「30分より少ない」の割合は、小学生では全国より高く、中学生では同等である。これまでの津市の状況と比べ、家庭学習の時間が増加傾向にある。小学生では、休日の学習時間も同様の傾向が見られる。



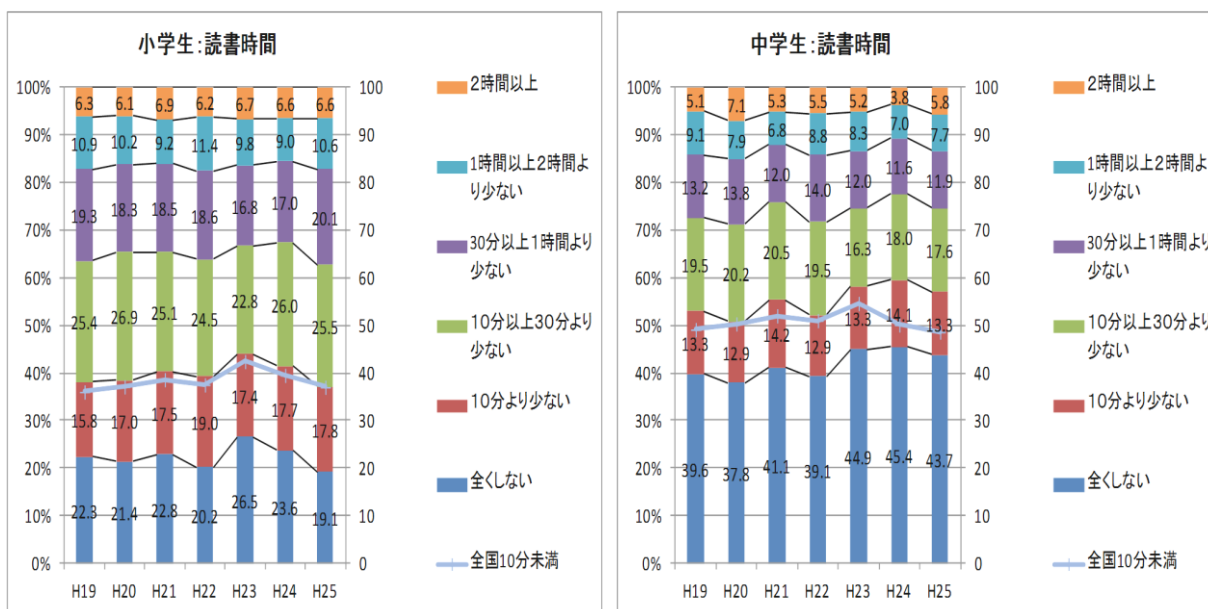
【授業の復習時間】

家で復習を「全くしていない」割合は、小・中学生とも全国より依然高いが、「している」または「どちらかというとしている」の割合は、やや増加傾向にある。



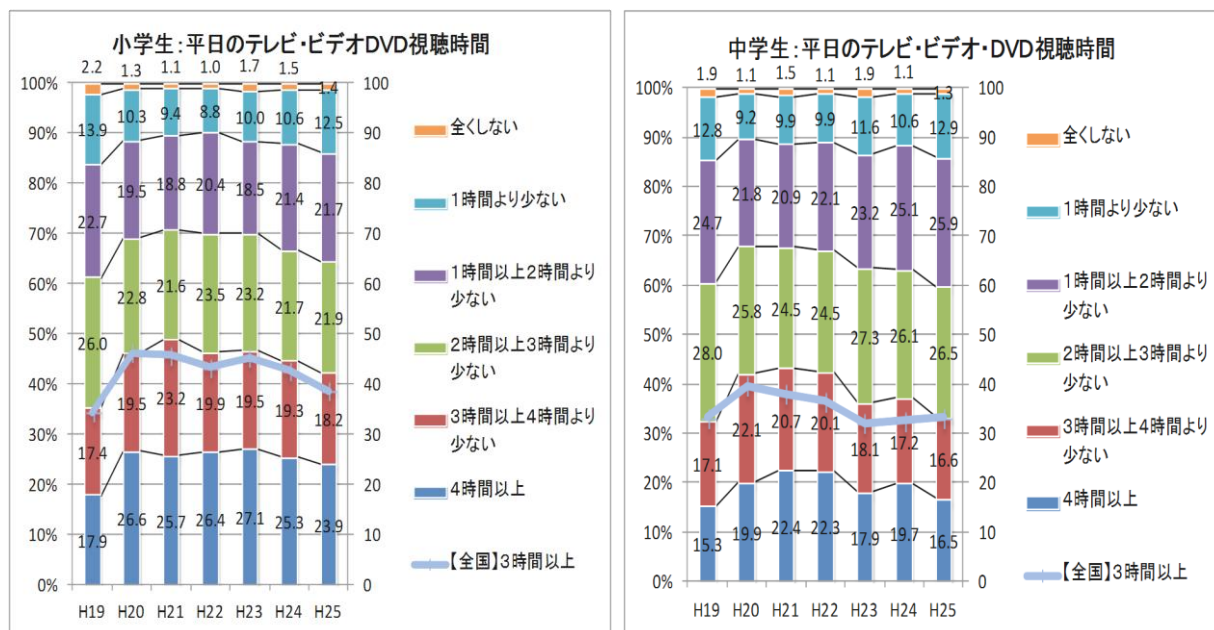
【平日、家や図書館での1日の読書時間】

小学生で1日30分以上読書をする児童は37.3%で、増加傾向にある。
一方、中学生では、57.0%の生徒が10分未満で全国平均を下回っている。



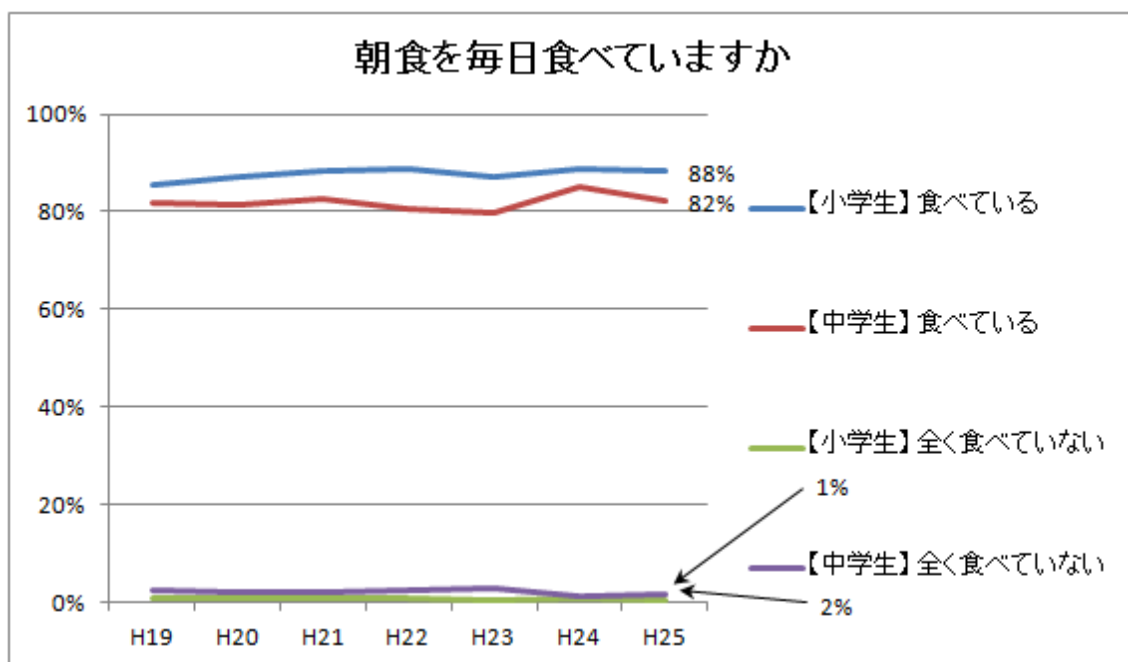
【テレビやビデオ・DVDの視聴時間】

テレビやビデオ・DVDを3時間以上視聴している割合は、小学生ではこれまでと同様に全国平均より高いが、中学生ではやや減少し、全国平均と同等である。小・中学生ともに若干、視聴時間は短くなる傾向である。ただし、ゲーム（携帯式ゲームを含む）をする割合は、増加しており、半数以上の小中学生は毎日1時間以上ゲームをしている（2時間以上が30%台）。



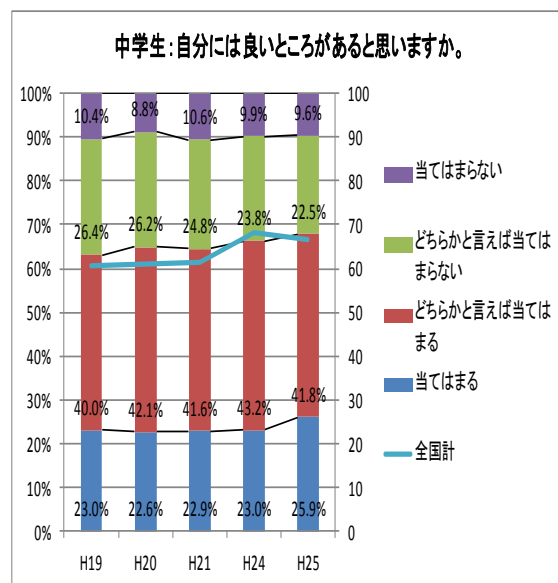
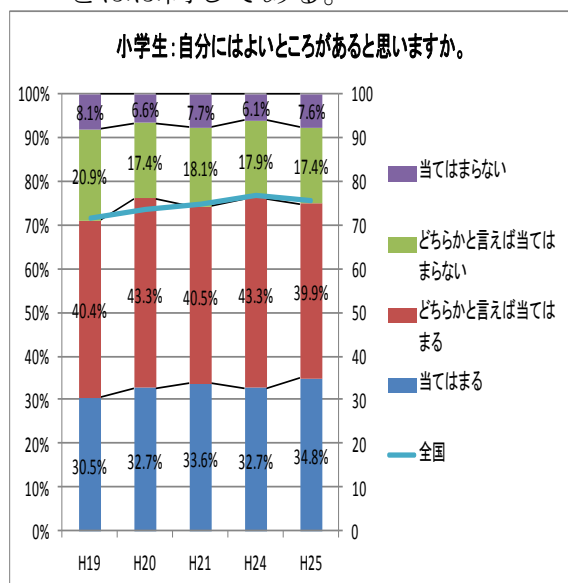
【朝食を食べる割合】

毎日朝食を食べている割合は、小学生で 90%弱、中学生で 80%強で、全国平均とほぼ同等で変化は少ない。一方、「あまり食べない」「まったく食べない」子どもが小学生で 3.6%、中学生で 6.8%いることを注視すべきである。



【自尊感情】

「自分には良いところがある」という中学生の割合が増える傾向にあり、全国平均を上回っている。小学生では、例年と同程度で、全国平均とほぼ同じである。

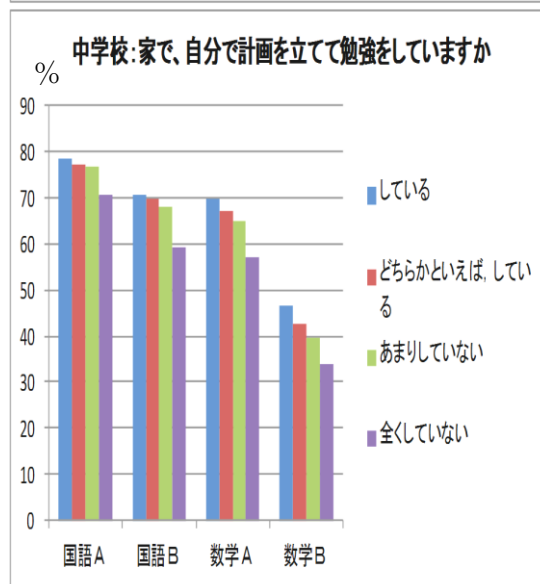
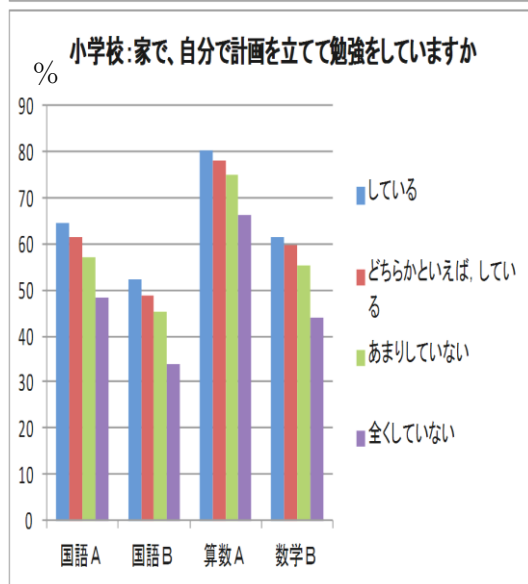
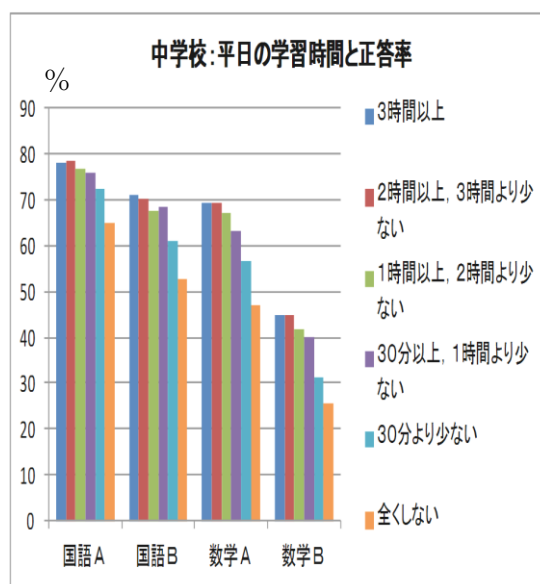
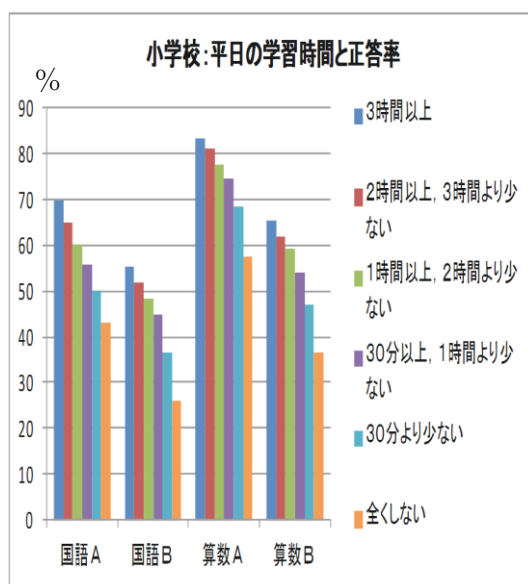


② 生徒質問紙の分析（抜粋）

昨年度の分析から、平均正答率の高い児童・生徒の学習や生活状況から特徴的な５点が挙げられたが、今年度の分析でも同様の傾向があった。

- (ア) 規則正しい生活（毎日の朝食、起床時間）
- (イ) 家庭学習の習慣化
- (ウ) 読書が好き
- (エ) 適正な生活時間
- (オ) 保護者や家族とのコミュニケーション

本年度の調査結果をもとにした、(イ) を補足するデータ



3 今後の取組・改善方策

【津市教育委員会】

- (1) 調査結果等を活用した指導方法の検証・改善を図るため、当該調査の結果活用説明会を開催し、各校での指導改善に活かす。
- (2) 「学習のめあての明示と振り返り」「書くこと」「学び合うこと」を通して、基礎・基本の定着と「思考力・判断力・表現力等」の育成を図る授業づくりを支援する。
- (3) 家庭学習の充実に向け、津市の標準となる「家庭学習の手引き」を作成し、市内の全児童・生徒に配付する。
- (4) 教育環境整備（ICT 環境の充実、図書館の整備等）とその活用を図る。
- (5) PTA 等と連携し、家庭学習状況や基本的な生活習慣の改善を図る。
- (6) 学力向上に向け、小中一貫教育の一層の推進、拡大に取り組む。各校の参考となるようなカリキュラム例を、今年度 1 月までに作成する。

【各小中学校】

- (1) 本調査結果を詳細に分析し課題を明らかにするとともに、全教職員で課題を共有し、改善に向けた具体的な実践を組織的に展開する。
- (2) 「学習のめあての明示と振り返り」「書くこと」「学び合うこと」を通して、基礎・基本の定着と「思考力・判断力・表現力等」の育成を図るための授業づくりを全校で取り組む。
- (3) 言語活動の充実に向け、目標を定めた読書指導に取り組む。
- (4) 家庭学習の充実と定着に向けて、家庭とも連携しながら学校全体で取り組む。
- (5) 輝きプロジェクトで培った、学校・家庭・地域の連携を基盤に、家庭学習状況や生活習慣の改善を図る。
- (6) 次年度以降に推進する小中一貫教育の趣旨を全教職員が周知し、中学校区が一体となって組織的・系統的・継続的な指導を積み重ねる。

【保護者・家庭】

- (1) 毎朝の朝食や規則正しい生活習慣、携帯電話やゲーム、インターネットの適正な使用など、子どもの発達段階に応じた家庭環境をつくる。
- (2) TV 等を消して落ち着いた場で、決まった時間に学習や読書をさせるなど、環境を整え、家庭学習・読書の習慣化に取り組む。
- (3) 家庭での対話を通して自尊感情を育む。